

大手ではない法人の強みを生かす

仰星監査法人
名古屋事務所長

小出 修平氏

東陽監査法人
名古屋事務所長

桐山 武志氏

日本公認会計士協会東海会
会長

稲垣 靖氏

太陽有限責任監査法人
名古屋事務所長

古田 賢司氏

三優監査法人
名古屋事務所長

吉川 雄城氏



監査法人は法人の規模感に応じ、大手、準大手および中小に分類される。東海地域では、中小監査法人も上場会社監査登録事務所として、上場会社の監査を数多く行っており、大手と共に、準大手および中小が東海地域の経済社会の発展に寄与している。近年では、監査業務だけでなく、新規株式公開（IPO）業務や企業経営を支援するアドバイザリーなどでも存在感を増している。大手ではない事業規模からこそ発揮できる強みや提供できる価値について、今回は、準大手監査法人の名古屋事務所長4氏と日本公認会計士協会の地域組織・東海会の稲垣靖会長が語り合った。

スピード感や柔軟性に特色

稲垣 監査業務の品質や効率などについて、準大手監査法人ならではの利点や強みをどのように考えていますか。

小出 仰星監査法人は顔が見える規模感だからこそ関係者間のコミュニケーションが緊密で、意思決定も素早くできます。画一的ではなく、事情に応じて柔軟に対応できるのも強みです。

吉川 スピード感があることに加えて、三優監査法人は地方の人材を巻き込んでワンチームで運営しています。例えば私は名古屋事務所長に就く前、本部審査部の部長を務めていました。様々な地域の人材と交流があるので組織内の風通しが良く、困りごとがあればすぐに相談できる関係性があります。

桐山 意思決定の素早さは大きな強みです。東陽監査法人も400人規模の組織ですので、問題があれば即座にトップまで伝わります。国際的な会計事務所ネットワーク「Crowell」のメンバーファームですが、国内では比較的自由に事業を展開しています。

古田 太陽有限責任監査法人の組織体制は、監査業務やIPO業務、国際業務、アドバイザリーなどの部門別に分かれていません。そのため横断的・総合的な見地からクライアントを支援できるのが強みです。

吉川 近年、監査品質に対する社会的な要求水準が高まり、準大手監査法人も膨大な手続きが求められるようになりつつあります。

小出 準大手監査法人の強みを維持しながら、どう対応するかが課題です。クライアントからも良さを失わないようにしてほしいと要望を受けています。



小出氏



稲垣氏

名古屋に誕生予定であるなど、当地ではスタートアップを地場産業にしようとの動きが活発化しています。周辺の上場企業の創業者による支援も本格化してきました。名古屋に根差して活動している準大手監査法人が果たすべき役割への期待も高まっています。

多様な人材、地域で育てる

稲垣 どの業界も人手不足に悩まされています。公認会計士も例外ではありません。次代を担う人材の採用や育成をどのように進めていますか。

桐山 当法人の採用には大きく2つの特色があります。1つ目は地元の高専や専門学校に進学して公認会計士資格を取得した人材の比率が多いためです。2つ目は女性の採用比率が高いことです。女性が地元で働き続けられるよう、これからの支援していきたいと考えています。

古田 準大手監査法人からの転職先



吉川氏

古田 スタートアップに対しては、すぐに監査という段階になくても、ショートレビューを実施して足りない点を洗い出すといったサポートもできるでしょう。

準大手監査法人ならではの強み。日本公認会計士協会東海会としては、公認会計士試験合格後に学ぶ実務補習所での育成に力を入れています。横のつながりができる点でも重要です。

稲垣 地域の公認会計士を育てる観点から、当会は法人の枠を超えて実務補習所での育成を進めてきました。地域全体の底上げにつながっていると感じます。公認会計士の役割は監査業務以外にも広がっています。企業の組織内会計士や社外役員として活躍する人も増えてきました。

小出 当法人は本業に影響のない範囲で副業を認めているので社外役員などを務めることが可能です。私も社外役員に就いています。監査法人がどのように見られているか知ることができて勉強になります。

古田 当法人も対外的な活動が法人内の評価で考慮されます。知見を広げる機会として有用だと思います。

吉川 知見を広げるといって観点では、当法人は希望の部門を手伝える制度を設けています。例えば監査部門にいなからIFRS（国際会計基準）推進室という他部門の業務を手伝って経験を積むことが可能です。

桐山 当法人も企業価値評価などのアドバイザリーを実施しています。副業は知見を広げるのに効果的ですが、本業に影響が出ない程度に



古田氏

古田 当法人はアドバイザリーを別会社で実施しており、希望に応じて転籍や出向が可能です。監査法人内は監査業務や特定の2項業務非監査証明業務が中心です。

稲垣 海外駐在などによりグローバルな人材も育っていますか。

古田 当法人はアジア、北米、欧州の18カ国・地域にジャパンデスクがあり、11・12人の駐在員を派遣しています。手を挙げれば比較的、派遣されやすい環境です。3・4年の駐在経験を経て帰国したグローバル人材が増えてきました。

吉川 当法人は国際的な会計事務所ネットワーク「BDO」のメンバーファームであり、海外業務にも力を入れています。海外駐在は昇格の必須要件ではないため、競争率はそれほど高くないと思います。

稲垣 東海地域には300を超え上場企業があり、そのうち約4割の監査を準大手・中小監査法人が担っています。これは決して小さな数字ではありません。準大手監査法人ならではの特色や強みを生かして、これまで以上に企業や社会の支えとなることを期待しています。

第45回 日本公認会計士協会研究大会 名古屋大会2024

開催日 2024年9月12日(木) 会場 名古屋マリオットアソシアホテル

開催にあたり 全国研究大会実行準備委員長 大島 嘉秋氏

この研究大会のため、約2年の準備をしてきました。全国の公認会計士が名古屋に集結します。記念講演は徳川宗家第19代の徳川家広氏にお願いしました。徳川家は現在まで継承されています。研究発表では、東海会として世界有数のサプライチェーンを持つ当地域のサステナビリティ情報開示・保証をどう進めていくのか、また公認会計士で市長である四日市市の森智広市長と米子市の伊木隆司市長の対談を予定しています。

翌日のエクスカッションでは、伊勢神宮、名古屋城、トヨタ博物館、ステーションAIなどを訪問します。この地を訪れる公認会計士に、この地の歴史、文化、新しい取り組みを全国に持ち帰っていただきたいと思っています。

jicpa 信頼の力を未来へ

破壊創造継承。前例踏襲を打ち破れ。 ~ VUCAの時代に公認会計士が取り組むべき課題 ~



※リノベーションした日本公認会計士協会東海会のオフィス(名古屋市)で